

新庁舎のコンセプトの検討視点について

1. 本庁舎のあり方（平成29年3月「仙台市役所本庁舎諸課題対策検討報告書」より）

平成28年度に設置した次部長級職員による「仙台市役所本庁舎諸課題対策検討調整会議」において、新庁舎のコンセプトの検討に活用できるよう、本庁舎の老朽化以外の課題に対応する形で、本庁舎のあり方を整理した。

あり方（対応する課題）	あり方実現の方針
○災害対応の司令塔（防災性） 大規模な災害が発生しても、対応の中枢拠点として活用できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の本庁舎復帰と機能強化 災害時の業務継続性の強化 他行政機関等の災害時活動拠点確保 円滑な災害対応に寄与する庁舎や敷地の活用
○高い利便性（機能性・社会性） 機能が集約され、かつ、全ての人にやさしい庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 分散する本庁機能の集約化 ユニバーサルデザインの導入による使いやすさの向上 番号や色分けによる分かりやすい案内サインの導入 執務環境等の改善
○社会的な要求の充足（社会性） 現在の社会が求める性能を満たす庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 各種法規の現行基準への適合 庁舎内各フロアにおけるセキュリティゾーニングの導入 低炭素化を通じた環境への配慮 ICTに対応する庁舎仕様
○柔軟性・持続可能性（機能性・活用性） 状況の変化に対応し、長く、円滑に使い続けることができる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 設備等更新性への配慮（長寿命化） 建物更新を考慮した敷地の活用 効率的な事務室運用と機能的なファイリングの実施 コミュニケーション強化に寄与する庁舎内レイアウトの導入
○市民・地域への貢献（活用性） 市民活動や賑わい創出等に寄与し、市民から親しまれる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい創出と災害対応に寄与する広場の設置 庁舎内イベント開催スペースの確保 市政関連情報発信スペースの拡充 車両交通環境の改善（駐車場運用改善等）
○最適なライフサイクルコスト（経済性） ランニングコストを含む投下コストの総額を最適化できる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理費を含むライフサイクルコストの最適化 仮庁舎賃貸借費用や組織変更等に係る費用の削減
○地域特性の表現（課題対応以外の+α） 仙台市の象徴となる庁舎	<ul style="list-style-type: none"> 仙台らしさの反映 歴史や記憶の伝承

新庁舎コンセプトとして
4～5項目に集約

コンセプトにリンクした整備方針として
段階的に具体化（細部は基本計画にて）

参考：本庁舎の課題（平成29年3月「仙台市役所本庁舎諸課題対策検討報告書」より）

課題	事例
老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築設備の劣化 ● コンクリートの中性化
老朽化以外	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災性 ● 機能性 ● 社会性 ● 活用性 ● 経済性

2. 他政令指定都市の新庁舎のコンセプト

他政令指定都市における新庁舎のコンセプトは次のとおり。なお、コンセプトは基本理念や基本的な考え方と表記されるケースも多い。

都市名 (構想策定期間)	コンセプト	整備イメージ
横浜市 (H25.3)	<ol style="list-style-type: none"> 的確な情報や行政サービスを提供し、豊かな市民力を活かす開かれた市庁舎 市民に永く愛され、国際都市横浜にふさわしい、ホスピタリティあふれる市庁舎 様々な危機に対処できる、危機管理の中心的役割を果たす市庁舎 環境に最大限配慮した低炭素型の市庁舎 財政負担の軽減や将来の変化への柔軟な対応を図り、長期間有効に使い続けられる市庁舎 	 <p>新市庁舎管理計画より</p>
京都市 (H25.3) ※	<ol style="list-style-type: none"> 市民の安全・安心な暮らしを守る防災拠点となる市庁舎 効率的・効果的な行政運営が実践できる市庁舎 世界の京都の「顔」として、「おもてなし」の心を備えた市庁舎 すべての人にやさしく、環境に配慮した市庁舎 将来の変化にも柔軟に対応できる持続性のある市庁舎 <p>【上記を包括する共通の基本理念】 「東日本大震災」の教訓を踏まえ、市民が安心・安全に暮らせるよう、防災拠点として機能するとともに、現市庁舎が抱えている様々な課題を解消し、市民に開かれ「歴史都市・京都」にふさわしい市庁舎を目指す</p>	 <p>京都市新庁舎整備実施設計より</p>
川崎市 (H26.3)	<ol style="list-style-type: none"> 市民の安全で安心な暮らしを確保するため、発災時には災害対策活動の中枢拠点として十分に機能する市庁舎 すべての利用者に配慮し、効率的な執務が可能で、経済性が高く、将来の変化に柔軟に対応できる持続可能な市庁舎 地球温暖化対策の積極的な推進による、環境にやさしい市庁舎 川崎市の文化などの情報を発信するとともに、国内外からのお客様をもてなし、市民からも親しまれる市庁舎 今後のまちづくりや他の施策と相互に連携し、防災や人の流れに配慮した、まちづくりに資する市庁舎 	 <p>設計受注者プロポーザル提案書より</p>
千葉市 (H26.11)	<ol style="list-style-type: none"> 将来の変化への柔軟性の確保 ア 将来の人口構成や社会ニーズの変化に対応できる庁舎 イ 長期間にわたり効率的に使い続けることができる庁舎 通常業務の遂行性の確保 ア 市民や事業者にとって使いやすく、利便性や機能性に優れ、環境にも配慮した庁舎 イ 優れたセキュリティを持ち、安全に業務遂行できる庁舎 非常時の業務継続性の確保 ア 地震をはじめ、災害に強い構造を備えた庁舎 イ 非常時の業務継続機能を備えた庁舎 	 <p>新庁舎整備基本設計の概要【設計コンセプト・計画概要】より</p>

※ 京都市本庁舎（議会議場を含む）は昭和2年に建設されており、歴史文化的価値を有することから改修保存され、その周囲を取り囲むように別棟を整備する計画。建て替えよりは改修増築に近い。